# NEWS LETTER No.19

# チーム新・湯治。

「チーム新・湯治」ニュースレター 発行元:環境省温泉地保護利用推進室 発行日:令和5年3月20日

## 温泉や温泉地に関する最近の取組について、ヒアリングしてきました!

温泉や温泉地に関する取組として4件を紹介します。コロナ禍でも新たな湯治のカタチを模索されています。

### 癒しにさらなる発展を 学生団体YUZU

- ■関東圏の学生で構成される学生団体YUZUは、湯河原温泉(神奈川県湯河原町)を拠点に**勉強会や街歩き等のイベント企画運営、情報発信、地域・海岸清掃等のボランティア活動等、温泉地を多角的な視点から盛り上げる**ことによる地域活性化・温泉地活性化に取り組んでいる。人々に「癒やし」を与える存在である温泉地を学生という立場で盛り上げることで、コロナ禍による観光客・利用客の減少、後継者不足等の課題にアプローチしたいと考えている。
- ■複数の温泉地でヒアリングを行い、若者の力を借りたいという 声のあった湯河原町を拠点として活動を始めた。町役場から 観光協会や飲食店の紹介を受け、少しずつ関わりを広げなが ら活動してきた。最初は清掃ボランティア等から始め、地道に 地域との信頼関係を積み上げていき、イベントの支援や業務 の依頼等を受けられるようになった。最近では、行政や地域事 業者の方からフィードバックを受けられるビジネスコンテストの開 催や、それを通じた政策提言なども行っている。
- ■地域の方から伺った湯河原のよさである落ち着いたまちの雰囲気、大切にしたいこと、人などを活かしながら、温泉地のニーズに合わせた取組を進め、今後は湯河原温泉の活性化に尽力していきながら、関東圏の穴場の温泉地に徐々に活動を広げていきたい。



### 開かれた図書館 草津町立温泉図書館

- 草津町(群馬県)では、1988年に開館した町立図書館を2015年に温泉資料館と統合し、「温泉図書館」としてオープンさせた。図書館の郷土資料や温泉に関する本、温泉資料館で掲示していた温泉の資料を置き、展示と書籍を合わせて見ていただける形にしている。
- **▽本の貸出しは住民票のある住所が確認できれば町内外の方でも可能**だ。近隣町村の方、日帰りや宿泊観光客、リゾートマンション所有者の方からの利用もあり、**吾妻郡外・群馬県外の登録者は全体のおよそ38%である**。夏休みの自由研究目的で利用される方や、論文の資料として借りたものを地元に帰られてから郵送返却というケースにも対応している。
- ▼バスターミナルの3階にあり、待ち合わせ時間に館内を閲覧いただく観光客の方も多い。お子様連れ、学生旅行、卒業旅行など若い方々も多く、さまざまな年代の方に利用されている。
- ■フィールドワークやまちなかめぐりをされた方からのお問い合わせには資料を用いて案内し、内容に応じて旅館組合や観光協会等へ案内を促すこともある。今後も利用者が求められる内容を提供し、「開かれた図書館」をさらに実現していきたい。



#### 10年後の混浴プロジェクト

環境省十和田八幡平国立公園管理事務所・酸ヶ湯温泉株式会社

- ■十和田八幡平国立公園に多く残る湯治・混浴文化の現状の課題を解決するために、環境省では、「10年後の混浴プロジェクト推進のための調査等業務」を令和3年度に開始。今年度で2年目となる。同公園内には混浴ができる施設が13軒あり、各施設それぞれ抱える課題が異なり、それらは多様である。
- ■酸ヶ湯温泉(青森県青森市)の混浴風呂「ヒバ千人風呂」では、女性は女性専用時間でないと入りづらいという問題があったことから、男女ともに湯あみ着を試験的に着用して混浴してもらう実証実験を行った。その結果として、これまでよりも混浴に対する心情的な理解が示された。一方、自走化にあたっては、施設側でのオペレーションの追加や湯浴み着の着心地や扱いやすさの改善といった課題が明らかになった。
- ■13軒の施設は、それぞれ置かれた環境等が異なるので、湯あみ着の導入が正解とは限らない。令和4年度は、松川温泉(岩 手県八幡平市)でも実証実験を実施。混浴露天風呂までの動線を男女で分け、すだれ等を各所に設置するなどして対応した。
- ■実施モデルをもとに、自分達がどのようなことができるかを各宿で考えていくことが重要。この取組が施設の経営や全国の温泉地に広がり、うちでもやろう、文化を守ろうということになっていただきたい。



#### アドベンチャーツーリズムから温泉街再生へ NPO法人 湯来観光地域がり公社

- ■湯来温泉(広島県広島市)は1500年ほどの歴史を有し、最盛期は宿泊施設が約13軒あったが、現在は2軒となった。NPO法人湯来観光地域づくり公社は温泉地を含む旧湯来町の活性化に取り組んでいる。
- ■近年は、温泉地を含む他地域との差別化の点から、湯来町の自然を活用したアクティビティの造成、アドベンチャーツーリズムに注力。特にシャワークライミングの利用者は大幅に増え、2022年は約900名が参加した。その活動はある程度認知されてきたため、これから温泉街再生を本格化していくところである。これまでも温泉街では、かつてまちに存在していた露天風呂を貸切風呂「誠の桧湯」として再生するとともに、飲食店を「湯治BAR SOZORO」として復活させてきた。
- ■今後は地域一体型の再生と高付加価値化にも取り組んでいきたい。また、広島はプロスポーツ球団が非常に多いので、この地域へ定期的に湯治に来ていただけるような「スポーツ×温泉」という形も進めていきたい。メンタルヘルスケアへのアプローチも考えており、大学と連携して人体のストレス数値の調査もしている。
- ■アクティビティの体験者や温泉利用者のほとんどが近場の居住者である。県外からも誘客できれば宿泊需要にもつながっていくだろう。 湯来の更なる知名度向上及び誘客に向けて取り組んでいきたい。

